



# アフリカ開発における日本の役割 － TICAD7に向けて －

外務省アフリカ部・国際協力局参事官，TICAD担当大使  
紀谷昌彦

2019年3月26日  
TICAD7記念シンポジウム「アフリカ開発の展望と産業人材育成」  
於：名古屋大学

# 構成

1. 今、なぜアフリカなのか
2. 変わるアフリカ、変わるTICAD
3. アフリカの開発課題に日本がどう貢献するか
4. 日・アフリカ間の交流をどう拡大するか
5. 日本の強みをアフリカと世界に生かす

# 1. 今、なぜアフリカなのか

## ① ビジネス機会

- ✓ 成長する市場、資源、イノベーションのフロンティア

## ② 地球規模課題

- ✓ 貧困、保健、教育、平和など、SDGs達成の鍵

## ③ 国際政治

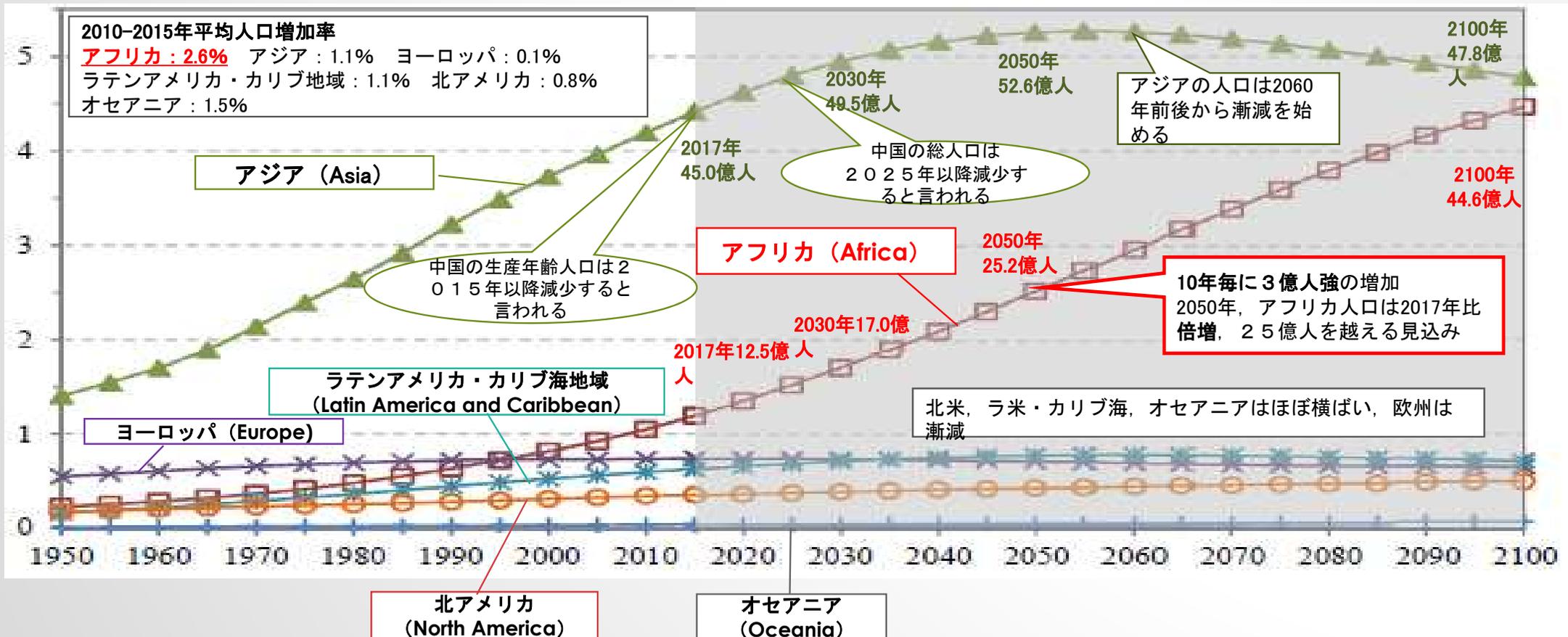
- ✓ 54カ国で発言力大、世界を動かすパートナー



TICAD7官民円卓会議第3回会合（2019年3月18日）

# 1. 今、なぜアフリカなのか①ビジネス機会 [高い人口の伸び]

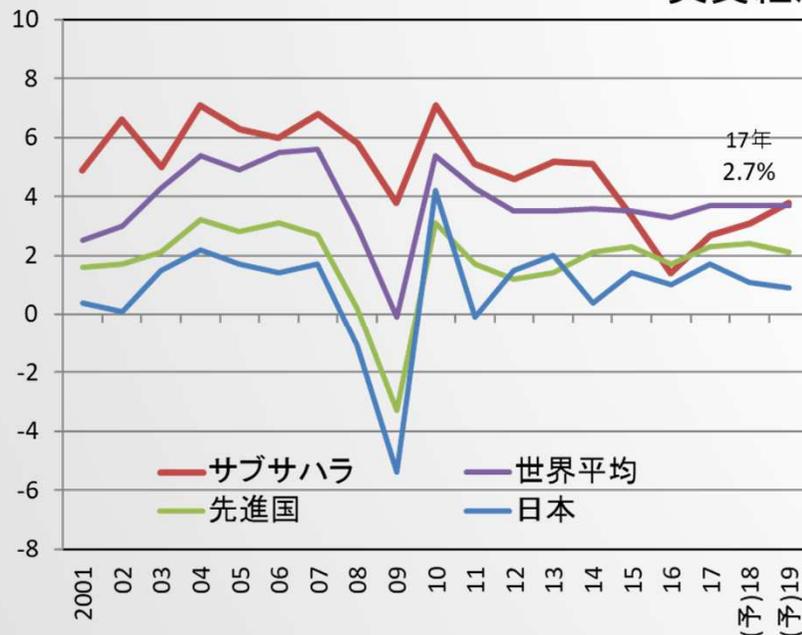
世界人口推移予測：6地域中最も高い伸びを見せるアフリカの人口（中位推計）



出典：“World Population Prospects, the 2017 revision,” Population Division, Department of Economic and Social Affairs, United Nations.

# 1. 今、なぜアフリカなのか①ビジネス機会 [高い実質経済成長率]

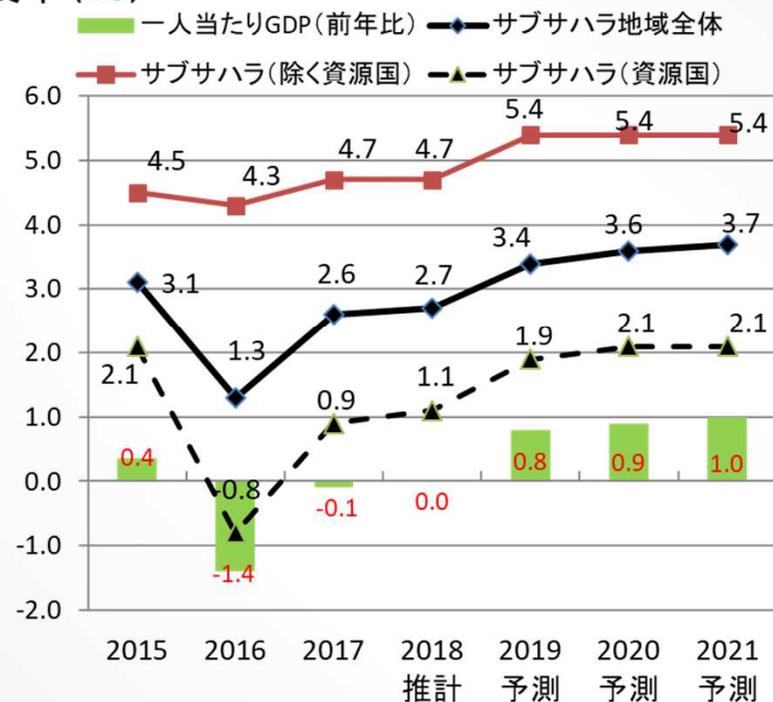
実質経済成長率(%)



2001年～2017年のサブサハラ地域の  
年平均成長率：5.1%

(参考) 世界平均：3.8% 先進諸国：1.8%

出典：国際通貨基金（IMF），世界経済見通し（2018年10月）

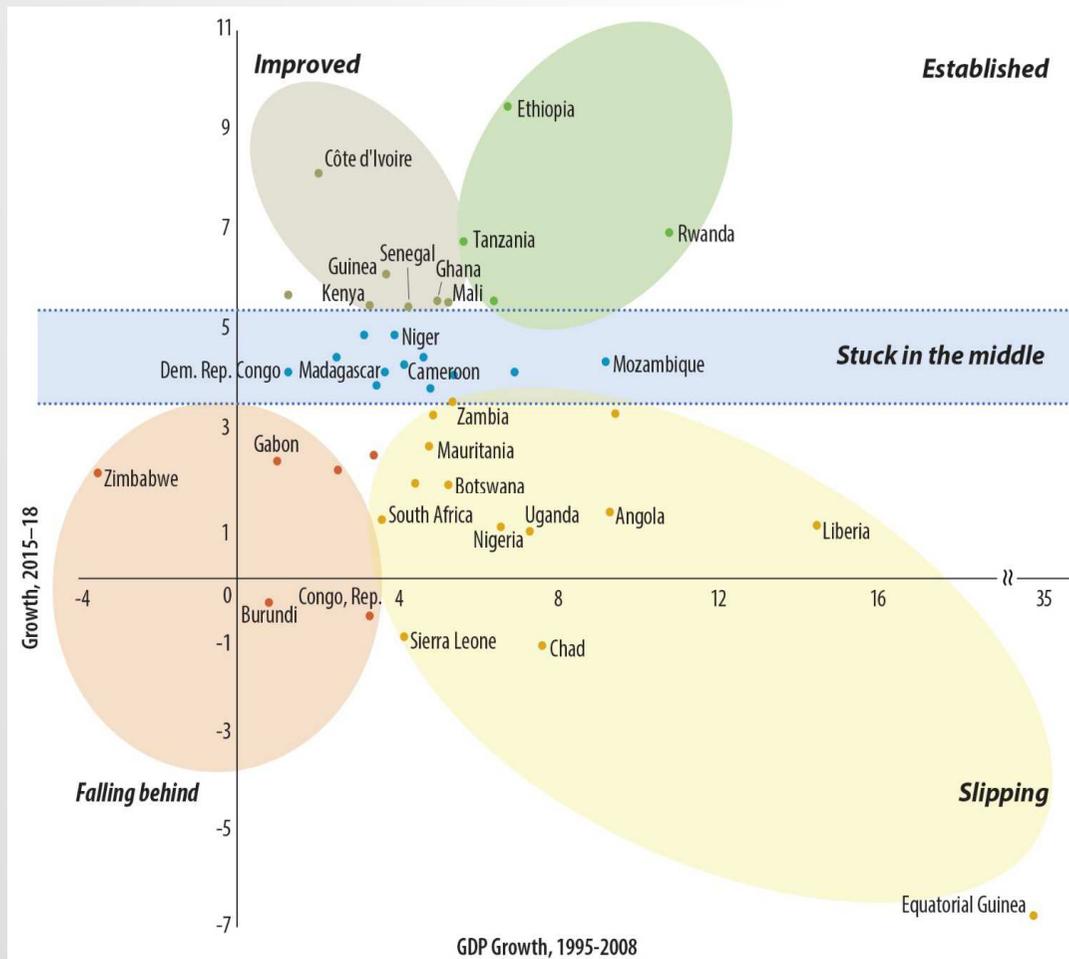


- 非資源国は、高い経済成長率を維持。
- 資源国（ナイジェリア，南アフリカ，アンゴラ）の経済成長は資源価格の影響を受け、停滞。

出典：世界銀行 “Global Economic Prospects” (2019年1月)

# 1. 今、なぜアフリカなのか①ビジネス機会 [多様な経済成長状況]

(2017年, 18年予測)



**サブサハラ 2.6%, 2.7%**

**高成長国 (2017年, 18年予測)**

エチオピア	10.1%, 7.7%
ガーナ	8.5%, 6.5%
ギニア	8.2%, 5.8%
コートジボワール	7.7%, 7.5%
セネガル	7.2%, 6.6%
タンザニア	7.1%, 6.6%
ブルキナファソ	6.3%, 6.0%
ルワンダ	6.1%, 7.2%

**資源国 (2017年, 18年予測)**

南アフリカ	1.3%, 0.9%
ナイジェリア	0.8%, 1.9%
アンゴラ	-0.1%, -1.8%

出典 : World Bank, Global Economic Prospects, Jan 2019.

出典 : World Bank, "Africa's Pulse," April 2018.

# 1. 今、なぜアフリカなのか①ビジネス機会 [国内各県に匹敵する経済規模]

(単位：10億ドル)

## サブサハラ諸国の国内総生産(名目)の規模

県内総生産(*1,2) 2015年		国内総生産(*3) 2017年	
		アメリカ	19,390.6
		中国	12,014.6
		日本	4,872.1
(関東ブロック)	1,858.8		
東京都	868.6		
(中部ブロック)	708.8		
(近畿ブロック)	692.7		
(北海道・東北ブロック)	513.6		
(九州ブロック)	408.8	ナイジェリア	376.3
愛知県	329.3	南アフリカ	349.3
大阪府	325.6		
神奈川県	282.4		
(中国ブロック)	249.1		
埼玉県	185.9		
兵庫県	170.6		
千葉県	168.3		
北海道	157.8		
福岡県	157.0		
静岡県	144.0		
(四国ブロック)	118.0	アンゴラ	124.2
茨城県	108.2		
広島県	99.4		
京都府	86.1		
宮城県	78.9	エチオピア	80.9
栃木県	75.1	ケニア	79.5
新潟県	73.6		
群馬県	72.1		
長野県	71.2		
三重県	69.0		
福島県	65.1		

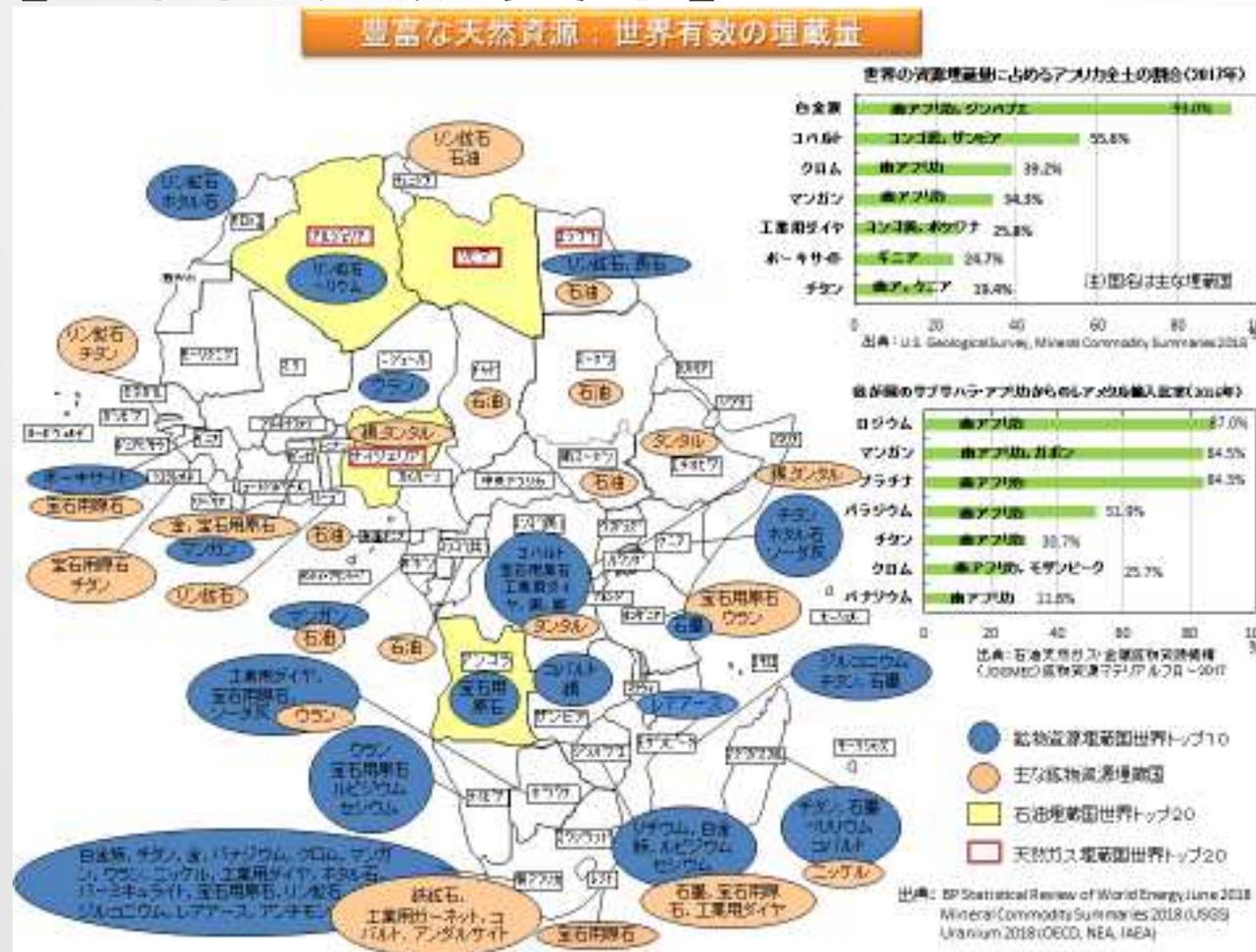
岡山県	64.8		
岐阜県	62.9	スーダン	58.2
滋賀県	51.3	タンザニア	51.7
山口県	48.9		
熊本県	46.3	ガーナ	47.0
鹿児島県	44.9		
愛媛県	40.9	コンゴ民主共和国	41.4
岩手県	39.3	コートジボワール	40.4
富山県	38.7		
石川県	38.1		
青森県	37.8		
長崎県	36.5		
大分県	36.4		
沖縄県	34.5	カメルーン	34.0
山形県	32.9		
香川県	31.5		
宮崎県	30.3		
奈良県	29.8		
和歌山県	29.4		
秋田県	28.0		
山梨県	27.1		
福井県	26.9	ウガンダ	26.3
徳島県	25.7	ザンビア	25.5
佐賀県	22.9		
島根県	21.4		
高知県	20.0	ジンバブエ	17.5
		ボツワナ	17.2
		セネガル	16.5
		マリ	15.3
鳥取県	14.6	ガボン	15.2

\*1: 県内総生産: 内閣府経済社会総合研究所, 「平成27年度県民経済計算について」より(平成30年8月31日)。

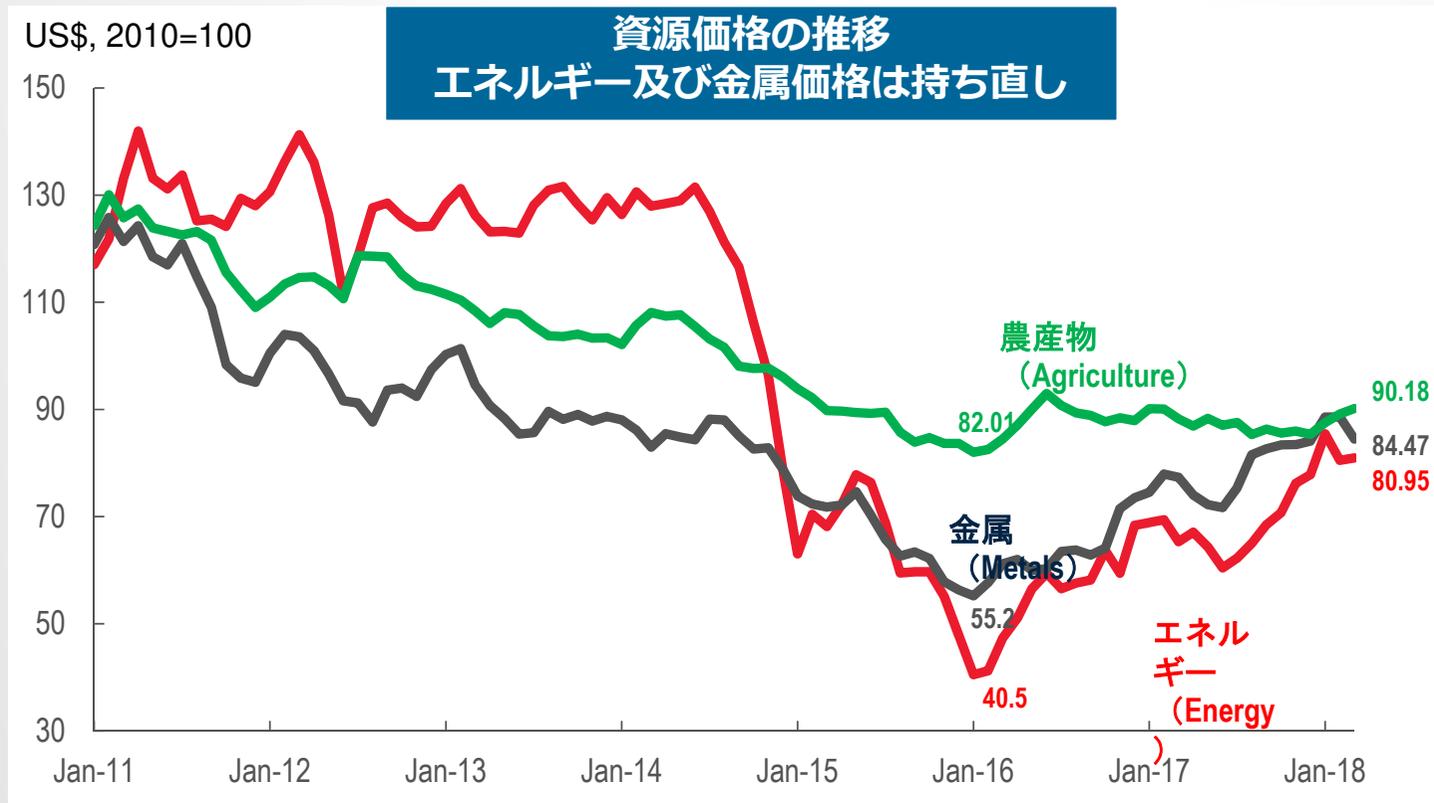
\*2: 県内総生産換算レート: 国民経済計算年報(平成30年版)の2015年度の円(四半期)の4期単純平均値(1ドル=120.13円)を使用。

\*3: 米国, 中国, 日本, アフリカ各国の国内総生産: 国際通貨基金(IMF)World Economic Outlook, April 2018。

# 1. 今、なぜアフリカなのか①ビジネス機会 [豊富な天然資源]



# 1. 今、なぜアフリカなのか①ビジネス機会 [持ち直す資源価格]



エネルギー価格：原油（84.6%）、天然ガス（10.8%）、石炭（4.7%）の加重平均。

金属価格：金（77.8%）、銀（18.9%）、プラチナ（3.3%）の加重平均。

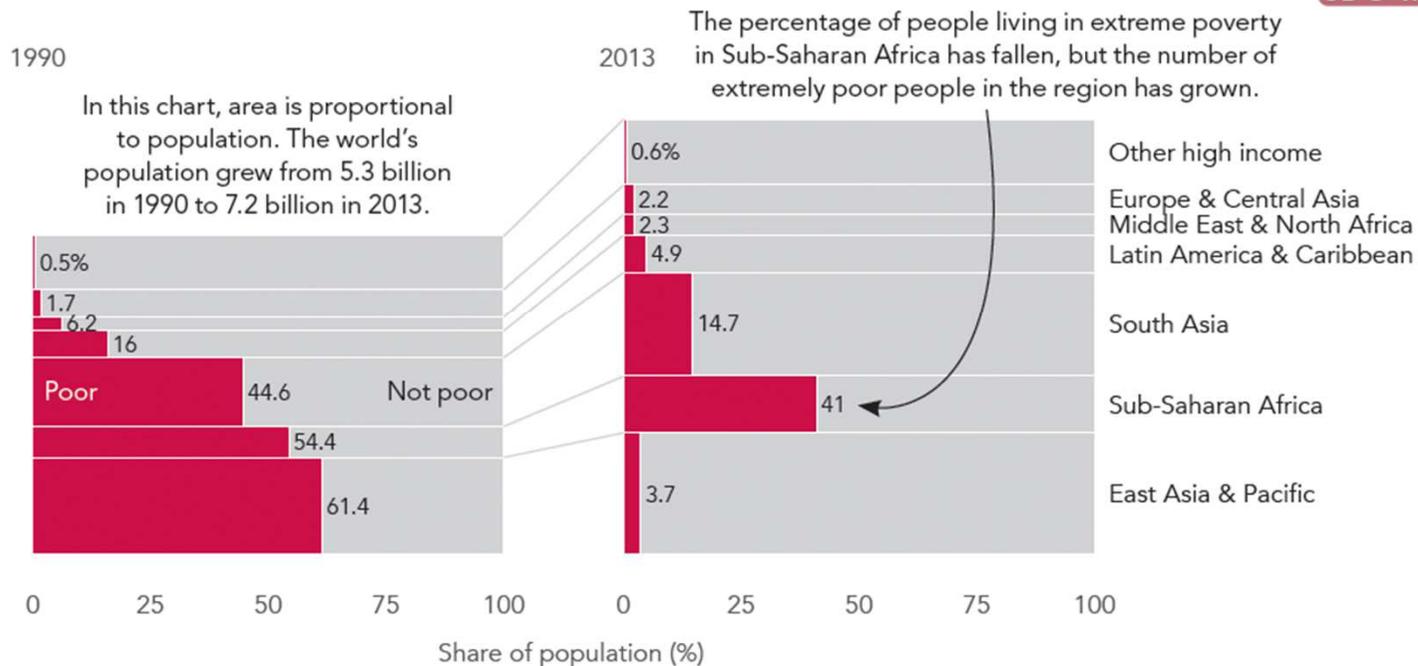
農産物価格：食物（穀物、油脂等40.0%）、原材料（材木等16.5%）、飲料（茶、コーヒー等8.4%）等の加重平均。

出典：“Commodity Markets Outlook, April 2018,” World Bank.

# 1. 今、なぜアフリカなのか②地球規模課題 [残る貧困]

The world's population has grown, and the regional distribution of poverty has changed. Compared with 1990, there are now more poor people in Sub-Saharan Africa and fewer in South Asia and East Asia & Pacific.

SDG 1.1



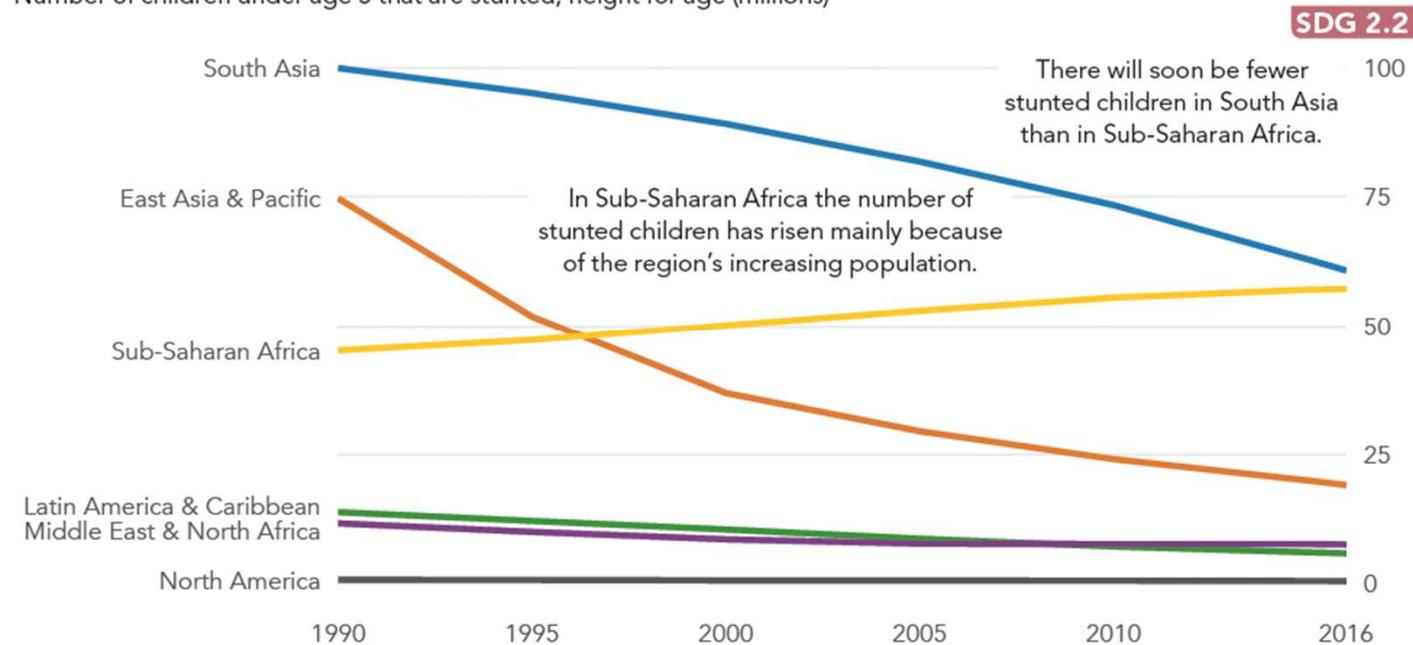
Note: Poor refers to people living on less than \$1.90 a day (2011 PPP). Regional aggregates exclude certain high-income countries.

Source: World Bank PovcalNet (database). <http://iresearch.worldbank.org/PovcalNet/home.aspx>

# 1. 今、なぜアフリカなのか②地球規模課題 [残る栄養不良]

Young children and infants are most vulnerable to the effects of malnutrition.  
Globally, over 95 million fewer children were stunted in 2016 than in 1990.

Number of children under age 5 that are stunted, height for age (millions)



Note: Estimates not available for Europe & Central Asia due to poor data coverage.

Source: UNICEF, WHO and World Bank. WDI (SH.STA.STNT.ZS); Health Nutrition and Population Statistics (SP.POP.0004.FE; SP.POP.0004.MA).

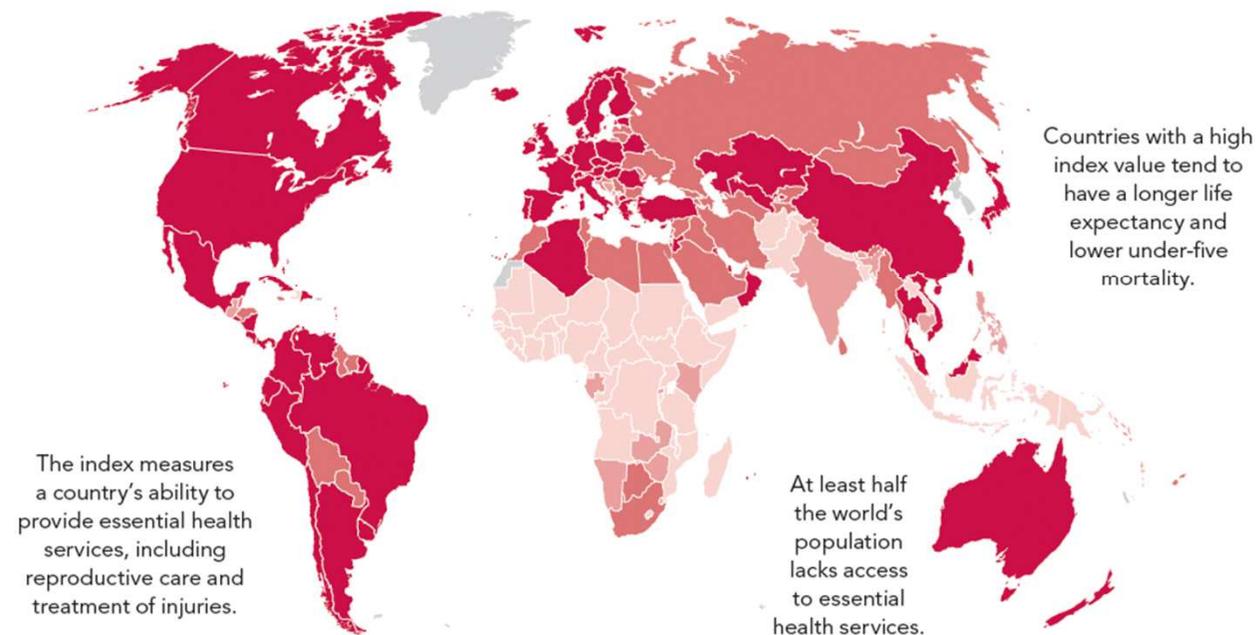
# 1. 今、なぜアフリカなのか②地球規模課題 [整備が必要な保健制度]

Universal health coverage is about all people having access to the care they need without financial hardship. Service coverage varies widely across countries.

Universal Health Coverage service index, 2015

Under 50 50-60 60-70 70 and over No data

SDG 3.8



Source: Hogan and others. Universal Health Coverage (SH.UHC.SV.COV.IND).

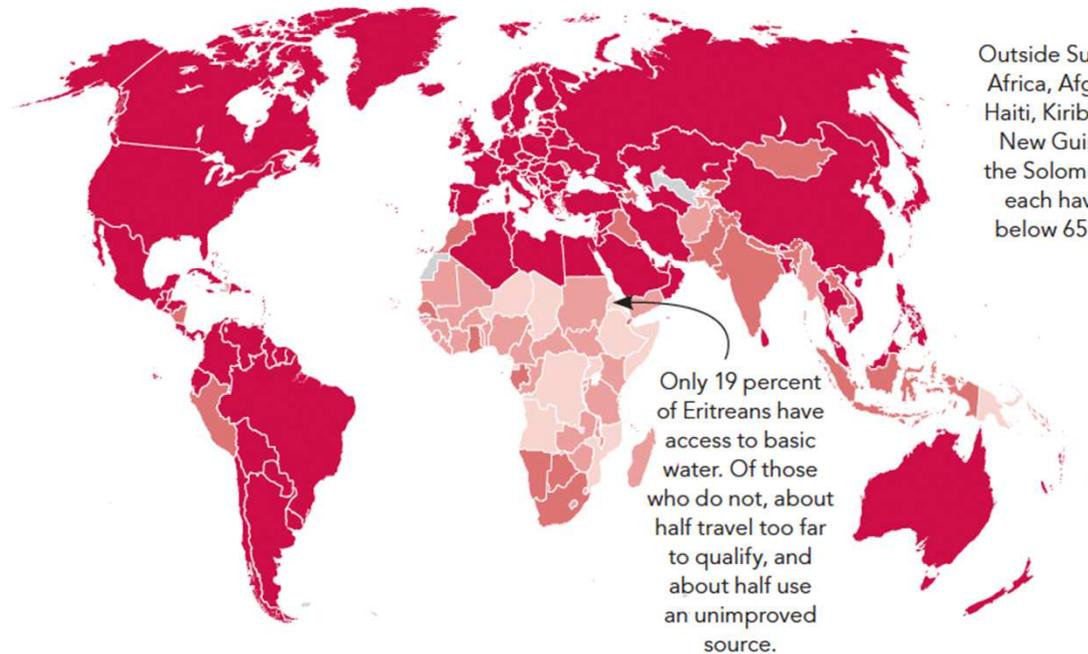
# 1. 今、なぜアフリカなのか②地球規模課題 [手に入れにくい安全な水]

At least basic water requires only an improved water source within a 30-minute roundtrip, but 42 percent of people in Sub-Saharan Africa lack even that.

People using at least basic water services, 2015 (% of population)

Under 50 50-75 75-90 90-100 No data

SDG 6.1

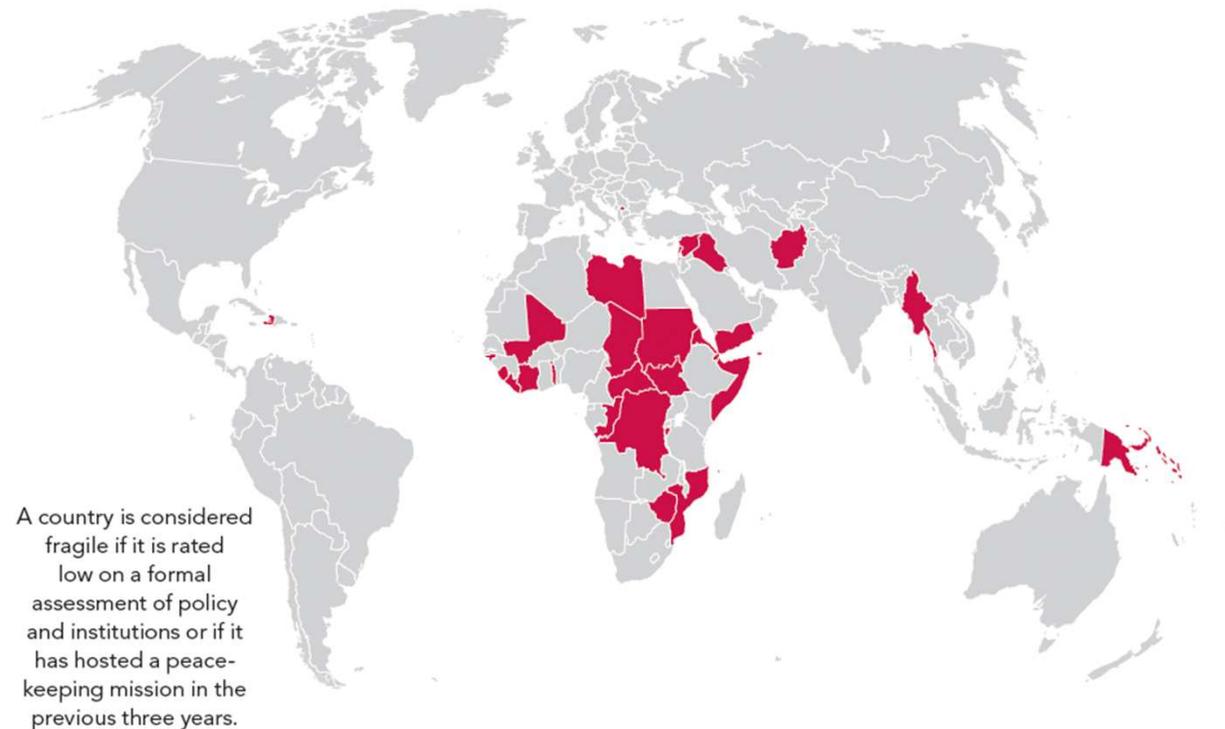


Source: WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply, Sanitation and Hygiene. World Development Indicators (SH.H2O.BASW.ZS).

# 1. 今、なぜアフリカなのか②地球規模課題 [脆弱な平和]

The World Bank currently identifies 36 fragile situations globally.

 Fragile or conflict-affected situation



A country is considered fragile if it is rated low on a formal assessment of policy and institutions or if it has hosted a peace-keeping mission in the previous three years.

Source: World Bank. <http://www.worldbank.org/en/topic/fragilityconflictviolence/brief/harmonized-list-of-fragile-situations>

# 1. 今、なぜアフリカなのか③国際政治 [54カ国を擁するアフリカ]

## 西部アフリカ(15か国)



## 中部アフリカ(9か国)



## ●日本に暮らすアフリカ人の国別ベスト3

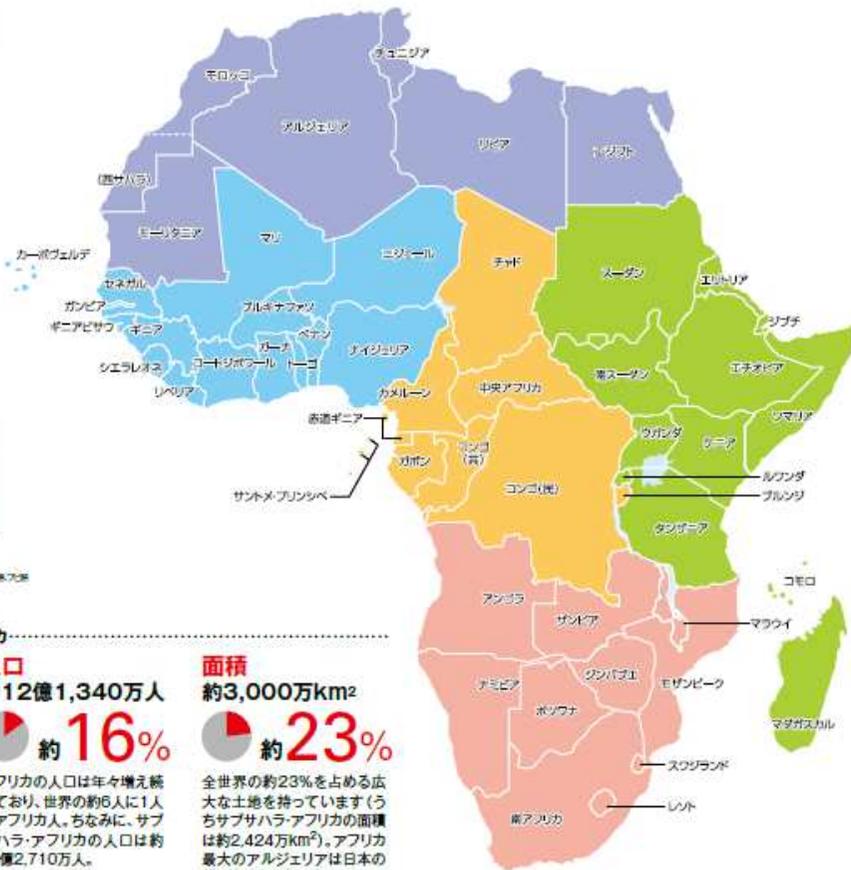
1. ナイジェリア	2,719人
2. ガーナ	2,033人
3. エジプト	1,840人

出典: 法務省「在留外国人統計」2019年6月末

## ●数字で見る世界の中のアフリカ



出典: UNFPA「世界人口白書」2016



## 北部アフリカ(6か国)



## 東部アフリカ(14か国)



## 南部アフリカ(10か国)



出典: UNFPA「世界人口白書」2016

# 1. 今、なぜアフリカなのか③国際政治 [AUの存在]



- ・アフリカ55か国・地域が加盟する**世界最大級の地域機関**。
- ・アフリカにおける**政治・安全保障分野**（紛争予防・解決，統一的な立場の形成等）に重要な役割を果たす。最近では，**開発分野にも積極的な役割**を果たしている。
- ・本部は**アディスアベバ（エチオピア）**。

## 沿革

- 1960 アフリカの年（17か国独立）
- 1963 **アフリカ統一機構（OAU）設立**
- 2002 **アフリカ連合（AU）へ発展的改組**  
→**政治・平和・安保分野での役割拡大**
  
- 2010 「**アフリカ開発のための新パートナーシップ（NEPAD）**」を統合  
→**開発分野での役割拡大**

- 紛争の予防・解決のための体制作り（AU平和・安全保障理事会，アフリカ待機軍，仲介・調停活動等）
- 国際場裡の課題に関する統一的な立場の形成（安保理改革に関する「エズルウィニ合意」，国際機関選挙等）

## 開発分野における各種イニシアティブ

- アフリカ・インフラ開発プログラム(PIDA)
- 汎アフリカ大学（PAU）構想
- アフリカ農業総合開発戦略(CAADP)
- アジェンダ2063

## 組織

- （1）最高機関は首脳会議である「総会」（2005年～2018年は年2回開催。2019年からは年1回開催）でありその下に加盟国閣僚により構成される「閣僚執行理事会」が設置されている。現在の議長国はエジプト（2012年1月就任。）
- （2）事務局として「委員会」（AUC）を設置。AUを対外的に代表し，政策・法案の提案や決定事項の執行を行う。  
現在のAU委員長（第4代）は，ムーサ・ファキ前チャド外相（2017年3月就任，任期4年）。
- （3）2004年5月，紛争の予防・解決に向けた取組強化（早期警戒，平和維持・調停・仲介，平和支援活動・介入等）のため「平和・安全保障理事会」を正式に設立。
- （4）AUの機関再編成，効率的な運営の実現，自主財源の確保などを含めたAU改革案（カガメ報告書）が2017年1月に纏められ，組織改革を加速している。

## 2. 変わるアフリカ, 変わるTICAD

### ① 変わるアフリカ

- 負のイメージからのスタート
  - ✓ 紛争, 貧困, 累積債務, 汚職等
- 2000年頃から「成長の大陸」へ
  - ✓ 今や新興国を含む多様性に富む地域に
- AUの発展
  - ✓ アジェンダ2063, 汎アフリカ自由貿易協定, AU改革
- 主要国・地域の関心の高まり
  - ✓ アフリカとのパートナー会議を次々と開催



## 2. 変わるアフリカ, 変わるTICAD

### ① 変わるアフリカ: アジェンダ2063

#### 「AUアジェンダ2063」とは



- ・ アフリカ連合（AU）の前身であるアフリカ統一機構（OAU）設立50周年の機会に策定が決定された、[今後の50年を見据えたアフリカの統合と開発の大綱](#)。
- ・ アフリカの自決、成長、自由のための汎アフリカ主義の継続に向けた原動力となる文書。
- ・ 2013年5月27日、第21回AU総会が採択した「OAU/AU50周年記念宣言」を基礎として策定、2015年1月のAU総会において採択された。
- ・ 同アジェンダには、「[最初の10年間の実施計画](#)」等が付属されている。

#### 「AUアジェンダ2063」で加速化が規定された取組

- ① 2025年までの貧困撲滅,
- ② 清潔・安全で計画された環境で適切な住居を有する機会の提供,
- ③ 教育・技能の改革,  
科学技術・研究・イノベーションの促進,
- ④ 天然資源の活用・価値付加を通じた経済の改革・成長・産業化,
- ⑤ 農業・農業ビジネスの近代化,
- ⑥ 気候変動・環境,
- ⑦ 世界クラスのインフラによるアフリカの接続,
- ⑧ 2017年までの大陸間自由貿易圏創設（CFTA）の加速,
- ⑨ アフリカ新生の牽引力としての若者の支援,
- ⑩ 2020年までの紛争のないアフリカの実現,
- ⑪ 公的・民間組織における2020年までの男女平等の達成,
- ⑫ アフリカパスポートの導入,
- ⑬ 民主的で人々中心のアフリカ,
- ⑭ 国際場裡の交渉におけるアフリカの統一的な発言力の増大（2023年までに常任理事国入り）,
- ⑮ 域内資源の活用の強化,
- ⑯ 実施・モニタリング・評価制度の策定。



## 2. 変わるアフリカ, 変わるTICAD

### ① 変わるアフリカ: 汎アフリカ自由貿易協定

#### アフリカ大陸自由貿易圏 (African Continental Free Trade Area: AfCFTA)

- AUはAgenda2063の中で、ビジネスパーソンと投資の自由な移動を伴う、モノとサービスの単一市場を創設し、アフリカ大陸関税同盟の実現に向けた道を開くことを目標。
- AfCFTAの創設により、2022年までにアフリカ域内貿易を2012年の2倍に拡大することを目指す。
- 2018年3月21日、第10回AU臨時総会（ルワンダ・キガリ）において、AU加盟55カ国のうち、44カ国がアフリカ大陸自由貿易協定に署名（署名しなかったのは、南ア、ナイジェリア、レソト、タンザニア、ザンビア、ボツワナ、ナミビア、ブルンジ、エリトリア、ギニアビサウ、シエラレオネの11カ国）。
- 現時点で、アフリカの域内貿易は、輸出入ともに、他の地域よりも域内比率が低いまま、あまり変化が見られない。域内関税を引き下げれば域内貿易比率が高まり、それが域内バリューチェーンの構築につながる。
- まずは、大陸内の道路、鉄道の建設、電力の安定供給、摩擦を生じさせないような関税の導入が必要。

RECsの域内貿易比率	域内輸出比率	域内輸入比率
西アフリカ諸国経済共同体 (ECOWAS)	10.6	9.4
西アフリカ経済通貨同盟 (WAEMU)	14.4	8.2
中部アフリカ経済通貨共同体 (CEMAC)	3.1	4.2
中部アフリカ諸国経済共同体 (ECCAS)	1.8	3.6
東アフリカ共同体 (EAC)	20.3	6.8
東南部アフリカ市場共同体 (COMESA)	10.2	5.3
南部アフリカ開発共同体 (SADC)	20.6	21.5
EU	63.6	59.7
ASEAN	24.2	22.7
MERCOSUR	13.1	15.8

アフリカ全体の域内・域外貿易  
域内貿易比率は低いまま、  
しかし、東部、南部は比較的高い



出典: UNCTAD, 2016  
(Africa in Focus, Brookingsより引用)

Source: UNCTAD, 2018

BROOKINGS

## 2. 変わるアフリカ, 変わるTICAD

### ① 変わるアフリカ：各国の対アフリカ・フォーラム

フォーラム名称	開催実績
<u>中国・アフリカ協カフォーラム (FOCAC)</u>	2000年から7回開催
<u>韓・アフリカフォーラム</u>	2006年から4回開催
<u>インド・アフリカ・フォーラム・サミット</u>	2008年から3回開催
<u>米・アフリカ・リーダーズ・サミット</u>	2014年8月開催（於：ワシントン）
<u>EU・AUサミット</u> ※第1回～4回は「EUアフリカサミット」	2000年から5回開催。
<u>仏・アフリカサミット</u>	1973年から28回開催
<u>トルコ・アフリカ協カフォーラム</u>	2008年から2回開催
<u>南米・アフリカ・サミット</u>	2006年から3回開催
<u>アラブ・アフリカ・サミット</u>	1977年から4回開催
<u>アフリカ・イタリアサミット</u>	2016年から2回開催（閣僚級）

## 2. 変わるアフリカ, 変わるTICAD ② 変わるTICAD

### ➤ 当初のTICAD

- ✓ アフリカ開発に関する国際社会の関心を喚起する, 開かれた包摂的なフォーラム
- ✓ アフリカの自助努力を支える開発パートナーの支援, 成長を通じた貧困削減等の哲学を共有, その主流化に貢献

### ➤ その後のTICAD

- ✓ 民間部門の役割の向上に伴い, 開発援助から民間投資・官民連携に比重が徐々に移行, 日本企業への期待向上
- ✓ 並行して, 日本での5年前の開催から, アフリカとの3年毎の交互開催に



## 2. 変わるアフリカ, 変わるTICAD

### ② 変わるTICAD : TICADの歩み

#### ➤ TICAD I (1993年, 東京)

- ✓ 「東京宣言」を採択, 冷戦終結後, 国際社会へのアフリカへの関心が薄れる中, アフリカ開発への関心の再喚起に貢献。

#### ➤ TICAD II (1998年, 東京)

- ✓ 数値目標を含む優先的政策行動を明記した「東京行動計画」を採択, TICADの基本原則である「オーナーシップとパートナーシップ」の理念が確立。

#### ➤ TICAD III (2003年, 東京)

- ✓ TICADプロセスの将来への方向性と重点的アプローチを示す「TICAD10周年宣言」を採択, 「人間の安全保障」が注目を浴びる。1000名以上が参加。

#### ➤ TICAD IV (2008年, 横浜)

- ✓ 「横浜宣言」を採択し, 「横浜行動計画」及び「TICADフォローアップメカニズム」を発表。3000名以上が参加。

#### ➤ TICAD V (2013年, 横浜)

- ✓ 「横浜宣言2013」, 「横浜行動計画2013-2017」を採択。約4500名が参加。

#### ➤ TICAD VI (2016年, ナイロビ)

- ✓ TICAD史上初のアフリカ開催。「ナイロビ宣言」, 「ナイロビ実施計画」が採択。約11000名が参加。総理同行ミッションには77企業・大学等代表が参加。

## 第7回アフリカ開発会議(TICAD7)の概要

2019年3月  
外務省アフリカ部



### 概 要

- 日時・場所: 2019年8月28-30日(於: 横浜)
- 共催者: 日本, 国連, 世界銀行, UNDP及びアフリカ連合委員会(AUC)
- 参加者: アフリカ諸国に加え, 国際機関, ドナー諸国, 民間企業, 市民社会等
- その他: 多彩で充実した内容のサイドイベントが開催予定

### ね ら い

- (1) 本年のWAW!, G20, G7の成果を具体化し, アフリカ開発の国際的な議論を牽引
- (2) TICADの中心にビジネスを据え, 成長基盤となるインフラ整備と人材育成を通じ, アフリカの成長を一層後押し
- (3) 誰もが自由にアフリカを語る開放的で国際的な場の提供

### TICAD7の柱(案)

- 民間セクターの育成とイノベーションを通じた経済構造転換とビジネス環境・制度改善
  - 日・アフリカ間の官民対話の更なる促進
  - 職業訓練や投資を通じた人材育成
  - 質の高いインフラ支援, 連結性強化, ブルーエコノミー推進等の支援
- 人間の安全保障のための強靱かつ持続可能な社会の推進
  - SDGs/AUアジェンダ2063の達成
  - ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を含む保健
  - STI, 教育, 環境・防災等で日本の技術や経験を活用, 女性や若者のエンパワーメント
- 平和と安定(アフリカ自身による前向きな動きを後押し)
  - 平和構築・制度構築支援, 治安向上に向けた支援, 平和人材の育成等

## (講師連絡先)

紀谷昌彦 (きやまさひこ)

外務省アフリカ部・国際協力局参事官

T I C A D担当大使

100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1

03-5501-8000 (内線3540)

03-5501-8352 (直通)

[masahiko.kiya@mofa.go.jp](mailto:masahiko.kiya@mofa.go.jp)

